

2025 年度（春学期）経済学部
ゼミナールガイドブック



COOL HEADS BUT WARM HEARTS
ALFRED MARSHALL

明治学院大学経済学部

渥美 利弘 ゼミナール

演習のテーマ

日本と世界の貿易

演習の内容

国際貿易を経済学の視点から学び、貿易データを使って、日本とある国、またはある商品に関する日本と世界の貿易に関する卒業研究をします。

より具体的に、ゼミで学ぶ内容には下記が含まれます。

- ・そもそも貿易が発生する理由、その際の貿易のパターン（何が輸出され何が輸入されるのか）、貿易が行われたときの経済的影響
- ・貿易統計の使い方（データの収集、整理、加工、グラフ化等を含む）
- ・貿易統計の分析

以上の学習・研究を通じて、貿易の理論と実際を学びたい学生を募集します。

私自身は産業立地に関する応用理論的な研究や、最近ではサービス貿易、自動車貿易そして偽造品の問題などについて、経済学の視点から研究をしています。私の関心分野やこれまでの研究について、詳しくは下記に一覧がありますので参照してください。

<https://gyoseki.meijigakuin.ac.jp/mguhp/KgApp?resId=S000333>

生方 雅人 ゼミナール

演習のテーマ

企業財務・投資理論

演習の内容

ファイナンス（企業財務・投資理論）はビジネスパーソンにとって世界共通の専門知識の1つであり、企業財務の知識や分析手法、ならびに投資理論の応用範囲はライフプランニングといった家計にまで及びます。企業財務（企業金融、コーポレート・ファイナンス）では企業が企業価値の向上を目指し、ビジネスをおこなう上で必要な資金をどのように調達するか、資金をどの事業に投資するか、株主にどれくらい利益を還元するかといった意思決定について考えます。投資理論（インベストメント）では株式、債券、投資信託といった金融商品の特徴や投資戦略について考えます。

3年次はグループワークを中心に、基本的な企業財務と投資理論に関連する考え方や知識を高めていきます。例えば、業界当てクイズ（財務諸表ベース）や積み立てNISA（2024年以降ルール）に基づいたポートフォリオ・コンテスト、グループ研究などをおこないます。また、経済・経営のデータ（アンケートデータを含む）や資料を活用して情報を収集し、そこから価値を引き出し、まとめ上げる力を向上させるために、Excelを用いたデータ分析もおこないます。4年次には3年次の内容をさらに高めつつ、卒業論文という目標に向けて逆算する形でゼミ活動をおこないます。そのほかに、先輩ゼミ生との懇談やゼミ合宿等があります。なお、演習の欠席は全体のモチベーションを著しく低下させるので、正当な理由のない欠席に対しては厳正に対処します。このような流れでゼミ生はビジネス・財務について好奇心をもって臨めるようになる基盤を作り、今後のキャリアを意識し、キャリアで使える考え方やツールを身につけていきます。

その他のゼミに関する情報は説明会や学生によるゼミナール紹介のページ等（例：https://econ.meijigakuin.ac.jp/seminar_introduce/23-ubukata/）を参考にして下さい。

（※）昨年度にゼミ生の募集をおこなっていないため、一つ上のゼミ生はいないことをあらかじめご承知おきください。

大野 弘明 ゼミナール

演習のテーマ

Financial Economics

演習の内容

【学習内容】

本演習では以下の二点を学びます。

- ・ファイナンスの標準的な内容を体系的に習得すること。
- ・コンピュータを用い、株価、利子率及び財務会計データなどの取り方、分析方法、データの解釈方法を習得すること。

【到達目標】

以上二点を習得することによって、『進路決定と卒業論文』を仕上げることを到達目標とします。

【ゼミでの2年間】

学生間の対話を重ねることを通じて得られるものは、上述の内容以上に大きな価値があると個人的に考えています。これまで懇親会、夏期・冬期ゼミ合宿、OBOG会などを実施してきました。企画から参加まで各学生に任せますが、ゼミの一員として積極的に参加し行動することを期待します。私もなるべく参加するようにします。

【OB・OGの進路】

卒業生は金融、不動産、建築、商社、アパレルなど多岐にわたって活躍していますが、銀行、保険会社、証券会社への就職比率が相対的に高いです。また、国内外問わず進学するという選択肢もあります。

【注意点】

本ゼミナールでは計算を避けて通ることが出来ません。現在出来ないことは全く問題としませんが、基礎から学習しますので徐々に慣れて下さい。ただし、高度な数学力を求めるというよりは金融経済に関する直観的な思考と理解を高めることに重きを置くつもりです。

岡崎 哲二 ゼミナール

演習のテーマ

日本の経済発展

演習の内容

3年次のゼミでは、19世紀末以降、現代までの日本の経済発展をマクロ的な視点から理解することを目標とする。テキストとして、南亮進・牧野文夫『日本の経済発展』（第3版）（東洋経済新報社、2002年）、菅山信次『「就社」社会の誕生：ホワイトカラーからブルーカラーへ』（名古屋大学出版会、2011年）を使用する。これらテキストを毎回1章ずつ、あらかじめ割り当てられた2名の学生がパワーポイントを使用して説明し、それに基づいて全員で議論する。また、いくつかのテーマを設定して、グループ研究を行い、研究成果をゼミで発表する。

4年次のゼミでは同じ期間の日本の経済発展を、よりミクロ的に産業・企業に焦点を当てて理解する。3年次と同様にテキストの輪読を行うとともに、各学生が卒業論文の準備のための発表を行い、年度末に卒業論文を提出する。

加藤 木綿美 ゼミナール

演習のテーマ

経営組織論・経営戦略論

演習の内容

本ゼミでは経営組織論・経営戦略論を学ぶ。

3年生では経営組織論・経営戦略論の標準的な内容を体系的に習得することを目指す。理論の理解を深めるため、理論を実際の企業活動に当てはめながら企業分析とプレゼンテーションを行う。また、経営に関するテーマについてのGD（グループディスカッション）、実際の中小企業が有する経営課題に対する提案活動などを行う。

4年生は卒業論文の執筆を中心に行う。卒論では理論的アプローチの簡易的な流れとして、フィールド研究からの理論化に挑戦する。すなわち、問いに対する仮説を立て、実際の現場でフィールドワークを行うことで仮説検証を行い、そこから何らかの理論を見出すというものである。経営に関して各自が関心のあるテーマを1つ決定し、資料文献調査を行った上で、インタビュー調査・アンケート調査のいずれかから研究方法を選び、まとめてもらう。テーマ例は以下の通りである。

- ・新業態ビジネスの組織動態：日本における Airbnb シェアリング・エコノミーホストの成功事例
- ・組織市民活動における動機付け要因：オリンピックボランティア参画の意思決定事例
- ・組織の経済学におけるモニタリング費用の国際比較：USED ファッションの事例
- ・組織における慣性と変革：バー業態変化の制度派組織論的解釈

ゼミではディスカッションやプレゼンテーションの機会が頻繁にあるため、自主的に考え発言・行動ができる学生、当該能力の向上を希望する学生を歓迎する。また、進路に対して真剣に考え努力している学生を歓迎する。

木川 大輔 ゼミナール

演習のテーマ

企業の経営戦略とビジネスモデルの研究

演習の内容

ゼミの基本的な軸は、実在する企業の経営戦略やビジネスモデルを分析し、当該企業が抱える課題を発見したうえで、その解決策を検討することです。

3年次には、実在する企業のビジネスモデルを「ビジネスモデルキャンバス」という手法を用いて分析します。例えば、皆さんがよく知っているメルカリやPayPay、TikTokやInstagramといったサービスのビジネスモデルはどのような点が優れているのか？あるいは、よく似たサービスであるUberEATSと出前館の違いはなにか？ABEMAを黒字にするにはどうしたらいいか？といった点などについて、経営学の理論に照らし合わせながらグループで議論し、理解を深めます（分析対象は皆さんの希望を反映します）。

これらのグループワークの過程で、実在する企業の投資家向け資料などを読むことに自然と慣れ、結果として就職活動時の企業分析に役立てることが期待されます。その後、分析したビジネスモデルをもう少し掘り下げて、その企業が抱える課題は何か？どうしたらその企業の収益を高めることができるか？といった点を議論したうえで、3年生の集大成として、3、4人の実務家達を招き、皆さんの提案を実務家の前で発表（中間報告、最終発表の2回）する機会を設けます。

4年次には、卒業論文の執筆が活動の中心となります。3年次に学んだ企業の経営戦略やビジネスモデルを研究テーマの中心とします。研究のアプローチは大きく分けて2つが考えられます。1つ目は、3年次で学んだような、実在する個別企業や競合同士の競争を観察し、既存理論ではうまく説明ができない現象を深く分析し、データやインタビュー等で集めた根拠に基づき仮説（命題）を導き出す研究アプローチです。2つ目は、既存の理論に基づき仮説を構築し、アンケートやその他の方法で得られたデータの分析を通じて仮説を検証するアプローチです。現時点ではとても難しいことに取り組むように感じるかもしれませんが、それほど心配する必要はありません。卒業論文を書き上げた時の喜びや成長の実感は何にも代え難いものになると思いますよ。

最後に、木川ゼミでは、ゼミでの活動を通じて、取組み内容に対する知識、理解を深めることはもちろんのこと、社会に出た後に汎用的に求められる能力（例えば、文章作成能力やプレゼンテーション能力など、およびそれらを個人ではなくチームで準備することに取り組める力）を養うことをゼミのもう1つの狙いとしています。

工藤 健太 ゼミナール

演習のテーマ

データ分析を使って社会の課題について考える

演習の内容

近年、ビジネスの場でもデータを用いた実証分析が重要視されています。そのため、本ゼミナールでは、統計学や計量経済学を中心としたデータ分析の知識を得て、論文が執筆可能な水準となることを目標にします。2年間という限られた期間で卒論研究が完了することを目指します。そのため、参加者は意欲的にゼミに参加し、積極的にスキルを身につけていくことが求められます。

(演習の進め方)

・3年次には、教科書を輪読し、プレゼンを行います。統計学・計量経済学の知識について整理し、Excel や R および gretl 等の計量ソフトウェアを用いた分析も行う時間を設けます。輪読の内容などは、参加者の興味・関心を反映させる予定です。

・一通りの学習が終わったのち、4年次においては卒論の研究テーマを決め、データの収集や必要な知識の習得に注力します。定期的に研究の経過報告を行う機会を設けます。

(卒論研究のテーマ)

データを用いた実証分析であることが前提になりますが、卒論研究のテーマ・内容は参加者の自由です。

(例) ・不祥事などの特定のイベントは、企業の価値に影響を与えたか？ ・近年の金融政策は、経済を活性化させるほどの効果があったか？ ・野球などのスポーツについての統計的分析も卒論として充分取り扱うことが可能

(受講にあたっての注意)

・報告者(報告グループ)は特別な事情を除き、欠席は認められません。授業が成立しなくなるためです。

・本講義では、ゼミ開始時の数学・統計学・プログラミングの知識については特に問いません。ただし、実証分析が可能になる水準に到達するためには、参加者が意欲的に学習することが重要です。

小滝 秀明 ゼミナール

演習のテーマ

貿易と起業

演習の内容

国際的な商取引における豊富な事例をもとに、全員が当事者の立場で議論して世界の第一線で通用する貿易ビジネス・起業・経営のスキル、英語力を身に付けます。

毎回のゼミでは、様々なテーマでのロールプレイや会議、プレゼン、ディベートを通して、自然に司会・発言・質疑・問題解決などを体験できます。また、卒業生や業界の著名人ゲストを招いて多業種の事例や世界標準のビジネスの実情を学び議論します。

年間を通して4名の小グループで貿易商社を起業するビジネスプランを練り上げます。商材を決め、貿易相手国や販売・仕入先を定め、マーケティング戦略を考え、資金繰りをマネージして決算書まで仕上げてみせます。自らが貿易商社を起業することにより貿易と経営の両面を楽しく学べます。将来、起業はもとより部門経営、社内ベンチャー、子会社経営、独立開業などに活かせる実力を自然に身に付けられます。

毎週のゼミではビジネスプランのプレゼンはもちろん貿易等に関する専門書を輪読し発表したうえで、全員で討議します。多くの一流企業幹部を招いてビジネスプラン発表会を開催し、採用に繋がることもあります。

学生が自ら考え、体験・披露することに重点を置くのが我がゼミの特徴です。全員が何らかのかたちで毎週アウトプットして刺激し合いながら、世界が求める一流のビジネスパーソンの力をつけます。必ずや皆さんは「Bゼミでも一年でこれだけ成長できた」と驚き、将来への強みや自信を持てます。すでにゼミ生の多くが商社・金融・物流・観光・航空などの一流企業に進み世界を舞台に活躍していることから、社会が我がゼミ生に寄せる期待の大きさが伺えます。

ゼミ第9期生よ、パッションを持って学び、世界から尊敬される一流になろう！

【小滝秀明：明治学院大学卒業、ロンドン在住17年、起業歴25年、現在、レアメタル商社社長として、日本の国益に資する希少資源の輸入調達に邁進中！】

西原 博之 ゼミナール

演習のテーマ

国際経営、比較経営、異文化マネジメント、企業の海外進出、中国、台湾などの華人経済圏における企業の経営管理、インバウンドビジネス、その他の国際ビジネス関連。

演習の内容

- 1) 開講期間：当該ゼミはBゼミであり、2025年度の1年間限定となる。
- 2) 同演習の研究対象は、「国際経営」、「比較経営」、「異文化マネジメント」、「企業の海外進出」「組織の国際化」、「グローバル人的資源管理」だけではなく、海外から日本に向かう「インバウンドビジネス」、その他の国際ビジネス関連にも及ぶ。つまり、企業や人の国際経営活動に関する「イン」及び「アウト」である。
- 3) 上記内容の関連文献を読んで、報告書を作成、プレゼンテーションを行ったり、その内容に関して質疑応答を行う。

同演習の目的は、国際経営に係わる知識を身につけて理解を深めることである。したがって、以下の活動を通してその能力を養う。

- ① 「国際経営」に関する教科書、参考図書、資料等の紹介、選定
- ② 選定図書の中から担当部分を選び、情報機器を用いたプレゼンテーションの実践
- ③ 少人数グループによるレジュメ作成、報告を行う。メンバーとの共同作業を通して、プロジェクト管理能力を高める。
- ④ 報告班のメンバーは、それぞれ報告レジュメとパワーポイント資料を作成し、担当者はプレゼンテーションを行う。
- ⑤ 報告を行わない班のメンバーは、指定された文献や資料を熟読し、事前に報告に関する質問を全体に提示する。
- ⑥ 報告班メンバーによる報告が終了した後、引き続き司会を務め、他の班のメンバーは質問を提示、質疑応答を行う。
- ⑦ 担当教員は必要に応じて、パワーポイントの提示方法、プレゼンテーション、質疑応答に対する補足説明やアドバイスを行う。

以上、在学中に国際経営についての知識を養うと同時に、学んだ知識を将来の進路、就職活動に役立てていくことになる。

以上

藤田 晶子 ゼミナール

演習のテーマ

企業の開示情報とその分析 —投資意思決定における財務情報と非財務情報の有用性—

演習の内容

企業の財務報告にかかる国際的な開示制度や会計基準をしっかりと理解し、それをどのように分析に活用していくのかを調査研究する。また、将来予測に不可欠とされる非財務情報にも焦点をあて、財務情報と非財務情報の関係や、非財務情報の課題などについて、検討をくわえていく。

具体的には、主として、次の内容を考えている。

- ① 国際的な開示制度とそのもとでの財務報告 ～情報と株価の関係
- ② 財務情報とその国際比較 ～J-GAAP と IFRS の差異
 - 財務情報から考える M&A の成否
 - 研究開発活動・広告宣伝費とその後の企業業績推移
 - ブランド力と企業業績 などなど
- ③ 非財務情報の役割と課題
 - ESG 情報の国際比較とその有用性
 - 人的資源に対する投資と企業業績
 - 統合報告書の役割とその分析 ～非財務情報と企業価値との関係
 - などなど

マイヤーオーレ ヘンドリック セミナール

演習のテーマ

International Business, Marketing and Retailing, Human Resources

演習の内容

In this seminar, we will explore how companies structure and manage their international businesses. Why and how do companies enter foreign markets, how does this affect their organization, how do they organize the management of human resources? Participants will examine these aspects through case studies of various companies, whether they are based in Japan or overseas. We will work with written materials, but research might also include interviews with managers or even the observation of the stores of foreign retailers in Tokyo.

Activities in the seminar will include:

1. Developing research questions and designing a research plan.
2. Learning how to find good information sources.
3. Analyzing information by using available frameworks from business and academia.
4. Confidently presenting findings through presentations and reports.
5. Working together and discussing with others

In addition to developing your analytical and presentation skills, I aim to foster your ability to interact and collaborate with individuals of different nationalities. This will be achieved through opportunities to engage with business professionals and to participate in joint projects, both online and in person, with students from universities outside of Japan.

松園 保則 ゼミナール

演習のテーマ

Public Speaking

演習の内容

This seminar course focuses on public speaking of all kinds. Through two years of seminar activities, students will master crucial principles of public speaking in English and develop their own engaging speaking styles for public presentations. Additionally, this seminar aims to prepare students for their future careers by fostering genuine confidence and professionalism in public speaking.

During the third year, 2025, students will learn about the fundamental principles of public speaking using assigned textbooks. They will also analyze professional speakers as case studies, engaging in group discussions and public speaking exercises in the classroom. Furthermore, to prepare for writing their thesis in English in their final year of 2026, students will write multiple-draft essays supported by logical arguments and information from texts.

Moving into the fourth year, 2026, students will explore the theoretical aspects of public speaking in depth, including text organization, linguistic features, delivery techniques, and psychological aspects. They will learn to apply these aspects when analyzing the performances of public speakers and will select and examine a few speakers using these criteria to develop their own professional speaking styles. The insights and findings from their analyses will be incorporated into their graduation thesis.

Throughout the two-year seminar, students are expected to actively participate in group and class discussions conducted in English during each session.